



Title	サイバーメディアフォーラムの発行に当たって
Author(s)	竹村, 治雄
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2008, 10, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70277
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

サイバーメディアフォーラムの発行に当たって



サイバーメディアセンター長 竹村治雄

サイバーメディアフォーラム10号を発行するに当たり一言ご挨拶申し上げます。サイバーメディアフォーラムは、サイバーメディアセンター（CMC）がサービスする教育用計算機システム（情報教育システム・CALL システム）のユーザ向けに発行している広報誌で、利用者の関心の高いと思われる内容の特集した記事や利用者の体験・システムの活用事例で構成されています。今号も CALL システムに関する最新の動向や各システムの利用者の声をお届けすることができ、皆様のお役に立てればと思います。発行に際し、貴重な原稿をお寄せいただいた、各著者の方々には改めてお礼申し上げますと共に、今後とも本センターの活動にご協力いただけますようお願いいたします。

さて、サイバーメディアセンター業務のうち教育支援に関しては、情報教育システムおよび CALL システムの運用、コースマネジメントシステム（CMS）の運用など、情報教育、マルチメディア言語教育、教育の情報化に関連する業務が実施されています。これらは、どちらかというとシステムの運用が中心であり、システムの利用方法などのサポートは限られたレベルにとどまっています。しかしながら、教育の情報化を推進する上では、教員に対する支援が重要です。多忙な大学教員を支援し、教育情報化に対しての適切なアドバイスを与えることの出来る専門家がスタッフとして所属するサポート組織の整備が望まれます。

現状では、WebCT のヘルプデスクが、WebCT の操作方法についてのアドバイスを行っており、また Student Technical Staff による教材アップロード支援なども実施されています。しかしながら、より一層の教育の情報化、特に教育の情報化を通じて単位の実質化や学者中心の講義を構成するには、教授法などの観点から教員に教材作成や授業の組み立てをアドバイスできる組織が必要だと考えます。たとえば、CMS 上でのレポート提出や、少テストを実施する際に、教育上考慮すべき点や、効果的なテスト問題の作成手法などについてのノウハウを蓄積し教員が共有することは重要です。

一方、マルチメディア教材の作成支援組織も必要です。G-COE など各種プロジェクトで教材の電子化が行われていますが、現状では教材作成のかかなりの部分を外部業者に発注しているようです。学内に教材作成支援組織を設置し、教材作成に関するノウハウを蓄積することで、教材の質を高めると同時に作成の効率化を計ることが出来、必要なコストを下げることが出来るのではないのでしょうか。ただ、そのような組織に必要な、高度な技術を有するスタッフを確保する必要があります。非常勤の教職員による対応では、ノウハウを蓄積したスタッフを長期間雇用することが難しく、何らかの人事制度上の整備とあわせた検討が必要だと思います。

もう一点は、著作権処理と著作権管理の問題です。現在の大阪大学の知的財産ポリシーではプログラム

の著作権を除いては、本学は著作権を管理しないこととなっています。一方では、各種プロジェクトで作成した教材は、著作権法上の職務著作として作成される場合があります、その結果、大学が一部著作権を有する教材が増えつつあります。また、これらの教材の有効活用を行うためには、教材作成に協力した教員からの使用許諾等を得て、適切な管理の元に教材の配布や維持管理を行うことが必要です。関連して、教材作成時に様々な権利関係を明確にし、その取り扱いを決めておく必要があります。ここまでの検討を含んだ教材作成事例のノウハウを共有することも重要なため、著作権管理に必要な学内規程を整備するとともに、本学の持つ著作物を適切に管理する組織の整備が望まれるところです。

まとめると、今後の教育の情報化に向けて、学内に教員を支援するために、単なるツールの使い方を

教えるヘルプデスクのような組織ではなく、教授法の観点から教員に適切なアドバイスを行うことの出来る支援組織、さらに各種教材作成を支援するための組織、関連する著作権処理と著作権管理を行う組織等の整備が、今後本学の教育情報化の進展には不可欠であり、整備に向けての検討が行われることに期待いたします。また、サイバーメディアセンターとしてもこのような取り組みに積極的に協力していく必要があると認識しています。

本巻頭言を結ぶに当たり、今後とも本センターの活動にご理解とご協力を賜りますようお願いいたしますと同時に、本センターの運営に対しての忌憚なきご意見をお寄せいただきますようお願いし、サイバーメディアフォーラム発刊に当たっての言葉とさせていただきます。